

## 2018 年度理工学部 FD 活動報告

理工学部 2018 年度 FD 委員会委員 鈴木敦夫

理工学部では、2018 年度、以下のような FD 活動を行った。

### 1. 当初計画

#### 1) FD 報告会の開催

学部教員全員を対象とする FD・自己点検報告会を年 1 回以上開催する。

#### 2) FD 講演会の開催

年 1 回以上、外部講師を招いて FD 講演会を開催する。

#### 3) 教育活動の評価

教育活動の評価として、すぐれた授業の担当教員を表彰する制度を継続する。

#### 4) 「学生による授業評価」の実施結果の分析

2017 年度から開始した、授業評価アンケートの理工学部独自の設問の回答について、2017 年度の回答と合わせて分析を行う。

#### 5) 教員相互の授業参観の促進

### 2. 2017 年度活動内容

#### 1) FD・自己点検報告会を以下の通り開催した

2018 年 3 月 11 日(月) 12:15～14:00

会場：南山大学名古屋キャンパス S 棟（研究棟）1 階第 1 会議室

講師 1：栞原 寛明 講師

題目：情報倫理科目の授業と運営について

講師 2：小藤 俊幸 教授

題目：新しい時代の微積分の教育

参加者 教員 29 名

#### 3) FD 講演会を以下の通り開催した

日時：2018 年 10 月 17 日(水) 15:30～17:00

会場：南山大学名古屋キャンパス S 棟 1 階 会議室 1

講師：野水 勉 氏（名古屋大学国際機構・国際教育交流センター・副センター長  
教育交流部門 部門長・教授 工学系研究科国際交流室 室員）

題目：名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題

講演概要：名古屋大学工学部・工学研究科における留学生受入れについて、30年前から様々なプログラムの取組みにより、大学内で国際化のリーダーシップを発揮してきたことを紹介していただいた。工学部・工学研究科は、率先して海外有力大学との連携を推し進め、交換留学や大学院生の研究・交換留学をも推進し、大学全体の国際交流戦略にも寄与しているとのことである。また、2008年に開始した自動車工学サマープログラムによって、自動車関連企業と連携した魅力的なプログラムを提供し、世界の有力大学から参加学生が集まり、世界有力企業が集まる中部圏のアピールに大きく貢献しているとのことである。さらに、この成果は2011年に本学で開始されたグローバル30国際プログラム（英語講義のみで学士取得）の自動車工学コース設置につながる。最後に、現在進めている取組みや今後の課題を紹介された。

参加者 教員 28名

3) 教育業績の表彰対象として、小市俊悟 准教授を選出した。授賞理由は「線形代数学の教材整備に尽力したため」である。

4) 2018年度実施した全学「学生による授業評価」のうち、理工学部独自の設問項目について、FD委員会委員が分析中である。

5) 相互授業参観促進方法の提案に至らなかった。

### 3. 2018年度活動の成果

講演会、FD・自己点検報告会については、ここ数年、講演会は夏休み前に、FD・自己点検報告会については年度の最後の教授会の日で開催することになっていた。2018年度は講演会を10月に開催した。参加者は28名と多かったが、本来は講義・学会等で多忙な時機であり、従来通り夏休み前に行うことが望ましい。教育業績の表彰制度については、JABEEの審査に際して審査委員から示唆され、それから継続している。今年度は、候補を検討中であるが、昨年度に引き続きクォーター制に移行した際のさまざまな困難を解決した貢献をも考慮している。

授業評価の理工学部独自の設問については、昨年度に引き続き分析を行っている。昨年度明らかになったのは、これらの設問は、既存の設問との相関が低く、新しい方向から学生の授業への取り組み方と理解度を尋ねる設問だったことである。理工学部の新たな設問は、今後の分析に役立つと考えられる。2018年度のデータも加えて分析を続け、理工学部の教育の成果を計測するためのより良いアンケートの作成を行うのが良いと考えられる。

授業の相互参観は、依然として進まず、その促進方法についても良い方策は見つかっていない。今後の検討課題である。